

シニア演劇ネットワーク

通信

第2号

2012年
はやくも秋号

発行●NPO法人シニア演劇ネットワーク

〒160-0001 東京都新宿区片町1-1 パレ・クリスタル 401 電話：070-6521-8100 (都)

初・座長会議開催される 青森から島根まで十一劇団参加

レポート 鯨エマ

去る7月28日、南アルプス市のあやめホール会議室にて、初めてのシニア劇団座長会議が執り行われました。集まったのは11劇団16名のみなさん。まず、13時半からのかんじゆく座公演「ねこら！」をみていただきました。

南ア市のシニア劇団旗揚げを目指して

今回、かんじゆく座が公演をすることになったのは、同市でシニア劇団を旗揚



げしてもらうことが狙い。来年開催予定の第2回全国シニア演劇大会in南アルプスの、目玉になる劇団になります。この日のチラシの裏面が、劇団員応募用紙になっていました。はたして、終演後、何枚の応募用紙が投函されるだろうと、市役所のみなさんは、ドキドキしていらっ

アフタートークでは活発な質疑応答

「ねこら！」終演後、出演者20名と私



終演後のアフタートーク

た。劇団員に応募しようかどうか、考えていらっしゃる方でしようか、何人もから、活発に質問が飛び出しました。「劇団に入って、私生活で変化があったことはありますか？」との質問には、オカマ猫を演じた渡部さんが、「カミさんや子供たちに優しくなりました。演技の稽古のあとは同世代の女性座員から、女性心理について教えられるんです。」と

て、笑いを誘っていました。
この日はなんと、なんと20名の劇団員応募があったそうです！

劇場ツアー裏&オモテ

あやめホールは、舞台ツラ（客席側）が、弧を描くように湾曲しているため、客席の位置によって、見え方が違います。全国から集まった座長さんたちには、あらかじめ、舞台図面と照明図をお渡しし、この劇場でご自身の劇団が公演できるかどうか、イメージしながら見ていただきました。

そのあと、シニア劇団関係者は舞台前に集まり、舞台監督、照明、音響スタッフから、この劇場の設備と技術面について説明を受けました。床の素材、バトンや緞帳の位置などを確認した後で、実際に舞台上がり、袖から裏通りを歩いてもらい、楽屋も見学していただきました。



全国シニア演劇大会 2011 のDVDが
できあがりました！

『シニアの花道』

参加した16劇団の舞台裏や、団員インタビュー、交流会の様々まで追いかけた、

記録DVD。1枚1,500円です。みられなかった劇団の作品をみたり、武勇伝を語る時の証拠品として、ぜひ、お手元に1本！
お申込み方法：FAXで、03-6908-6117まで。お名前、ご住所、お電話番号、本数、**「全国大会DVD購入」**と明記してください。

11劇団座長会議

昨年の大会では果たせなかった、座長会議に遠方から11の劇団代表者が集まってくれました。半分は昨年参加なされた劇団でしたが、4人で来てくださった島根県の「石見国くにびき18座」、石川県の「ドラマ工房Agクルー」など、初体の劇団さんもいらっしゃいました。一方、南アルプス市側からも、市長や担当者のかたが参加なされ、来年へ向けて期待の言葉をいただきました。一口に「シニア劇団」といっても、同好会的な集まり、NPO法人、演劇スクールシニアクラスの卒業生の集まり、など形態はさまざま。年齢も40代から80代まで、幅があったため、いろいろな意見が出ました。全国大会の具体的なイメージをしていただくためには、こうしてさまざまな劇団の方と対面で話し合うことが必要ですね。



立っているのが中込市長

参加劇団（都道府県名）……出席者名（敬称略）

- 劇団笑劇（青森）……… 福原仁一
- シニア劇団満座楽（宮城）……… 沼田益偉

- シニアミュージカル劇団一季（東京）……… 石田妙子・末藤康子
- かんじゆく座（東京）……… 鯨エマ
- 花筐（東京）……… 鈴木昌子
- シニア演劇支援機構（東京）……… 得丸伸二
- ロッキーズ（東京）……… 塩出泉、比留間知恵
- ドラマ工房Agクルー（石川）……… 高田伸一
- 劇団ババーズ（福井）……… 林幸男
- 石見国くにびき18座（島根）……… 金田サダ子 他3名
- 大正浪漫一座（三重）……… 阪上順夫

※欠席届が提出された劇団は、12劇団ありました。

南アルプス市の参加者

中込博文（南アルプス市長）
櫻本一幸（南アルプス市秘書課）
中込孝（南アルプス市演劇愛好家）

南アルプス市から

平成15年に6町村が合併し南アルプス市ができました。来年は10周年を迎えます。「健康長寿＝楽しく生きる」を

柱に、それを表す「ビック10イベント」として国民文化祭、そして第2回全国シニア演劇大会in南アルプスを開催します。

皆さんの疑問、解決への糸口

① 劇団員の渡航方法と荷物の運搬

昨年は、完全に各劇団にお任

南アルプス市長のご挨拶

前職を定年退職後、帰郷して老人ホームの園長をさせていただきました。そこで、老人ホーム長寿、病院長寿は絶対いけないと考え、「健康長寿のまちをつくりたい」と介護員さんたちと日本一の園をつくらうとがんばっていました。声を掛けられて県議会議員を一期務めました。が、議員では何もできないなと思ひ、昨年チャレンジして市長になることができました。

3・11後、これから日本は、自然と文明が調和した社会をつくっていくかなければなりません。今は中央集権から地方分権の時代となつてきていますので、田舎ではありませんが、人口7万人の理想のまちをつくらうと、それが県へ、国へ波及しボトムアップしたいのではありませんかと思ひ、「都市農村交流をやらう！」「元気高齢社会をつくらう！」と、理想に向かってチャレンジしています。

今日も「ねこら！」公演とその後、質疑応答をみさせていただきましたが、市民とのやり取りを聞き、大変素晴らしいことだと思ひました。この大会を契機に、世界一おいしいシニア演劇が日本全国に広がっていくことを夢に見ていきたいと思ひます。夢を現実にしていくことが、私の生涯をかけての夢です。死ぬまで夢を見続けたいと思ひます。来年、また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。よろしくお願ひします。

せしていましたが、今回は旅行会社を利用することを勧めたいと思ひています。各劇団にとって、一番安全で、安く、安心して南アルプス市に到着するための、さまざまなルートを知っているのは、旅行会社です。私達かんじゆく座の座員とスタッフが、今回の交通と宿泊を、名鉄観光さんに段取りしていただきましたが、非常に安く、同時に保険に入ることもできました。南アルプス市は最寄り駅から劇場までや、劇場からホテルの往復も、車なしでは難しい土地ですが、その点は、市役所からバスを出していただけるようにしたいと思ひています。小道具、大道具、衣装などの運搬は、昨年同様、各劇団にお任せすることになると思ひます。引っ越しパックを利用したり、劇団員が載るバスと一緒に運ぶなどの工夫がなされていきました。

羽田からは、電車よりも直通のバスを利用したほうが便利という提案もありました。

② 宿泊

①のように、旅行会社を利用すると、最寄り

③ 集客

昨年の東京でも苦勞しましたが、南アルプス市のたくさんの方に見ていただきたいと思ひます。各劇団が、自分たちの観客を南アルプス市に集めるのは限界があります。それより、市の機関紙、テレビ、新聞などで積極的に取り上げてもらえるように働きかけることが大切です。また、地元、南アルプス市で結成されるシニア劇団の旗揚げ公演を初日に開催し、お客様が2日目以降のプログラムにも足を運んでくださるようになりたいと思ひます。

④資金

昨年同様、助成金の申請はする予定です。スポンサー集めは、各劇団のご協力が必要で、す。いまのところ、確実な資金としては、南アルプス市からの援助と、チケット収入（1枚500円から1000円の間で検討）です。

⑤物販

あやめホールでは、物販が禁止されていましたが、今後は条例を改正してくださるようになりました。南アルプス市ももちろんですが、各劇団も、特産品を販売するなどして、地域のアピールができるようになります。

参加条件、座長会議で決定

11劇団で話し合った結果、来年の全国シニア演劇大会in南アルプスの参加条件が次の4つに決まりました。

● 仕込、上演、バラシふくめて2時間以内の作品であること。

● 交通宿泊費は、資金が十分に集まらなかった場合、各劇団の負担になることを了解していること。

● マスコミの取材、宣伝活動に、積極的に協力すること。

● 劇団員全員が、参加を望んでいること。

● 参加表明締切 9月15日必着

● 参加劇団決定 9月末日（参加劇団が少なければ、この時点で新たに募集する可能性もあります）

● 応募方法 電話、メール、ハガキのいずれかで

①劇団名（所在県名）②代表者、またはご連

絡いただく方のお名前（フルネームで）
③電話番号、またはメールアドレスをお知らせください。折り返し連絡をいたします。

応募先

070-6521-8100

miyako-rika@nifty.com

〒173-0001

東京都板橋区本町15-10

NPOシニア演劇ネットワーク事務局

皆さま、どうぞ、前向きに、ご検討ください。ご応募をお待ちしております。

*

座長会議のあとで、楽しい交流会。元の居酒屋さんで、それぞれの劇団自慢に花が咲きました♪個性は違っても、演劇という共通の話題で、あっという間に盛りあがりました。来年が楽しみです。



昨年の全国大会の感想

劇団かぶつ（八丈島）

山下和彦

全国シニア演劇大会に参加させて頂きありがとうございます。東京へ行って劇をやる？本気なの？色々不安な事ばかり、でもこんな機会は二度とないだろう、みんなで行こうと練習に励みました。

参加してよかった嬉しかった感激です。自分達の演技はいつもとは違う雰囲気の中でしたがなんとか終えることが出来ました。すごく疲れました。反省ばかりです。色々な準備、お手伝い、見に来てくださった方々、本当にありがとうございます。いろんな劇団を見せてもらって勉強になりました。

各地方、地方の言葉は暖かみをかんじました、皆さんの流れるような舞台運び、余裕のセリフをたくさん見ました。同じ劇でも何度見ても笑ってもらえる工夫が大切な事だと思います。折角の機会、自分のふるさとの宣伝も忘れずにしたい。八丈へ帰って老人会、小学校、中学校と公演が続いています。



福祉劇団「鶴亀」（宮城）

大宮光子

東京公演の余韻をかみしめて、疲れを癒している中、あの日は思い出を残して過ぎていきました。

私たちはキャリアは充分、舞台度胸は大丈夫と思っていましたが、やはり花のお江戸、雰囲気になんか飲まれそうでした。皆さん上手に見えました。完熟一期座の「龍の願い」。台詞が多く、動きもスムーズな80分。見ごたえありの完熟の域。うまいなあと、心底思いました。頂いたパンフレットを読むと、プロの劇団の演技指導を受けている人たちも多く、上手なはずだと思いました。

シニアと言っても、情熱的に楽しく続けている様子が交流会の会場でもわかりました。楽しみ、楽しませて充実できることは幸せですね。

とげぬき地蔵さんにもお参りできました。加茂監督、1年がかりの準備をまとめ、成功に終わったこと、本当に本当に御苦労様でした。

個人的には多摩市に住む妹夫婦と会い、満席の客、懐かしい言葉と笑い、屈託ない45分を楽しめたと、喜んで便りをくれました。欲を言わせていただければ、他の劇団の舞台をたくさん見たかったと思いました。本当に大きな経験をありがとうございました。

◆ まんざら (宮城県 仙台市)

団員21名(平均67歳)・2010年設立

杜の都仙台にこの劇団が誕生したのは2010年6月です。もう3年目を迎えることになりました。高齢者の「生きがい作り」と「介護予防」の取り組みの一環として仙台市の主催のもとに60歳以上のメンバーで立ち上がりました。「まんざら」という劇団名は「シニアの劇団もまんざらではない」という意味に加えて、公演の満座を願うとともに観客に楽しんでもらいたい気になって欲しいとの願いが込められています。

すでに2回の公演を経験しました。ほとんどが演劇初心者のため、不安がいっぱいの中で無我夢中でしたが今は、演じることの楽しさを身をもって感じながら、その達成感に喜びを覚えています。

今年からは仙台市から自立し、もちろんご協力を得ながら、市の高齢者演劇事業に



そつて「演劇のノウハウから楽しく学ぶ体験講座」のアシストとしても参加しています。

昨年、東京での「全国シニア演劇大会」で同年代以上の方たちも楽しく、たくま

しく演じられている姿に大いに感銘を受けて、今度はぜひ「まんざら」もできるかなと全員意気込んでいるところです。

◆ のべおか笑銀座

(宮城県 延岡市)

団員16名・2006年9月設立

2007年の「団塊の世代」の大量退職が始まった年に宮城県北部の延岡市で素人の50歳以上を対象に「シニアの、シニアによる、シニア劇団」の「のべおか笑銀座」が旗揚げされました。シニアの人生経験やシニアの存在感を武器に今年度までに6回の公演を開催してきました。毎年3月の本公演には沢山のお客様にご来場頂きました。団員自身が楽しみ、感動する舞台づくりをする事で、観客からも感動の拍手と温かい声援を頂き7年目に入りました。

地元弁で地元を題材にした脚本は役者にも、観客にも自然に溶け込み、より良い舞



台に仕上がっているのではないかと自負しております。

これからも、役者と観客が一体となるような楽しい舞台づくりを目指して頑張っていきたいと思っています。

ゆいかの興味しんしんシニア訪問



こんにちは！大学3年生のいなばゆいかです。5月からちよくちよく、かんじゆく座の稽古場にお邪魔しています。みなさんが温かく迎えてくださるので有難い限りです。ありがとうございます！

さてさて、第一弾の今回は、かんじゆく座のみなさんに、この劇団に入ってよかったと思うことを聞いてみました。返ってきた答えは、「友達ができた」「たくさんのお会いがあった」「メンバー同士仲が良く楽しい」「などなど。みなさん共通して、出会いを挙げたのが印象的でした。

確かに、いつ稽古場にお邪魔しても、皆さん本当に仲が良さそうでもっとも楽しそうなんです！いつでも笑顔がたくさんあって、初めて稽古場見学したときは、とにかく「明るいなー」と、びっくりしました。

私も大学で少しだけ演劇をやっていますが、ひとつの舞台をつくることを通して、「こんなにも仲良くなれるものか！」「ってくらいメンバーの皆と仲良くなれるんですよね。そういうところが好きで、私は演劇を好きになりました。そこはシニア劇団に所属する皆さんと共通するところなのかな、と思います。

歳をとると普通、新しい出会いってなかなかないものだと思います。インタビューをした中でも、「歳をとると、家族や職場など人間関係が限られてしまう」といった声が聞かれました。でも、シニア劇団はたくさんのお会いに溢れていて、そこがとても魅力的だな、と感じました。



きっとシニア劇団にはまだまだたくさん魅力があると思うので、その魅力をこれから探っていきたいと思います！次回をお楽しみに！

本格始動！

NPO法人シニア演劇ネットワーク

8月1日に登記が完了し、いよいよ本格始動です。

会員証ができました。今までサポート劇団、サポート会員の意手続きを下さっている方には、8月1日から1年有効の会員証を送らせていただきます。シニア演劇が社会に明るい橋を架けられるようにと願いを込めて、虹の絵柄にしました。

会員は随時募集しております。お問い合わせは事務局まで。

070-6521-8100 (都)

編集後記

昨年の全国シニア演劇大会で実現できなかった「座長会議」に、今回、11劇団が参集してくださいました。

日ごろのやり取りは電話やメールがほとんどですが、一度顔を合わせることで、心の距離がグンと縮み、たとえ意見や立場が違って、相手を尊重したい気持ちが芽生えてくるものだと痛感しました。

あやめホールは、集客数300人余りの劇場です。大会のプログラムを決めるうえで譲り合いが必要になってくるでしょう。少しずつ見えてきた課題を、力を合わせて解決してゆきたいと思っています。

(事務局一同)